

キッズニア白書 2016



刊行にあたって

大学研究機関によるキッザニア研究をご紹介した「キッザニア白書2014」刊行より2年、このたび新しい研究結果をまとめた「キッザニア白書2016」をお届けすることができました。

前号では立教大学 小口孝司研究室との共同研究「キッザニア体験は、こども達にどのような変化をもたらしたか？」の報告とともに、保護者の皆様やキッザニアでこども達をサポートするスーパーバイザーからの声をご紹介いたしました。

このたびの2016年度版では、東京学芸大学 松川誠一教授監修によるKCJ GROUPの独自研究「キッザニア体験が育むこどもの金融リテラシー」と東京大学大学院 牧野篤研究室との共同研究「キッザニアの魅力はどこにあるのか」についてご紹介させていただきます。

こどもの体験施設を教育的視点で調査研究した事例はこれまでに少なく、このたびご紹介させていただく結果は私共にとっても大変興味深いものとなりました。

本誌が、教育関係者や研究者の皆様の参考の一助となりましたら幸いです。

CONTENTS

刊行にあたって	01
キッザニアについて	02
研究1 キッザニア体験が育むこどもの金融リテラシー	05
研究2 親子関係の変化にみるキッザニア体験の効果：キッザニアの魅力はどこにあるのか	13
独自リサーチ「キッザニア」小学生1,000人アンケート	21
おわりに	24



キッザニアについて

キッザニアは、こども達が職業・社会体験ができる屋内型施設です。世界18ヶ国21都市で展開している^{*}キッザニアですが、そのさきがけとなったキッザニア東京は、まもなく開業10年目を迎えます。

日本には、キッザニア東京・キッザニア甲子園の2つのキッザニアがあり、両施設とも体験できる仕事やサービスは90種類以上。実在している企業がスポンサーとなったパビリオンが約60種類揃っており、ユニフォームや機材など、本格的な体験を演出しています。また、キッザニアでは専用通貨「キッゾ」が流通しており、仕事をすることでお給料としてキッゾがもらえる他、銀行に預金をしたり、キッゾを使って買い物したり、サービスを受けたりすることができます。

パビリオンでは、スーパーバイザーと呼ばれるスタッフが、こども達を迎えます。仕事の手順だけでなく、その仕事の意義や本質を伝え、仕事を一緒にやり遂げるちょっと先輩としての立場からキッザニア体験をサポートしています。

キッザニアでは、これらの職業・社会体験を、こども達が“楽しみながら学ぶ”ことを大切にしています。学び（エデュケーション）と楽しさ（エンターテインメント）の両方を兼ね備えた、[エデュテインメント]な場所であることを、いつも私達は目指しています。

※2016年1月現在

Get Ready for a Better World®

キッザニアのコンセプト

エデュテインメントタウン「キッザニア」が育むこども達の生きる力

考える力 …………… Think	協調性 …………… Cooperate
創造力 …………… Creativity	社会性 …………… Socialize
行動力 …………… Act	自立心 …………… Independence
交渉力 …………… Negotiate	エコ精神 …………… Ecology
チャレンジ精神 …………… Challenge	ホスピタリティー …………… Hospitality
向上心 …………… Ambition	尊敬する心 …………… Respect



- 医薬研究所 (甲子園)
- 印刷工房
- ウエディングセレモニー (東京)
- 運転免許試験場
- エコショップ (東京)
- エネルギー会社 (東京)
- 絵の具屋 (東京)
- お菓子工場
- おしごと相談センター
- お笑いライブ
- 科学研究所
- 観光バス
- カーデザインスタジオ (東京)
- カーライフサポートセンター
- ガソリンスタンド
- キッザニアの森 (東京)
- 銀行
- クライミングビルディング
- 警察署
- 携帯電話ショップ
- 警備センター
- 劇場
- 裁判所
- サラダショップ
- CMスタジオ (東京)
- 歯科医院
- 出版社
- 証券会社
- 商店街: エコバッグショップ (甲子園)
- 商店街: 画材屋 (東京)
- 商店街: ガラス工房 (甲子園)
- 商店街: 花屋
- 商店街: はんこ屋
- 消防署
- 食品開発センター
- 新聞社
- 自動車工場 (甲子園)
- 住宅建築現場
- 水道施設 (甲子園)
- すし屋 (甲子園)
- スポーツクラブ (東京)
- 精米工場 (甲子園)
- 石けん工場 (甲子園)
- ソフトクリームショップ
- ソーセージ工房 (甲子園)
- 大使館 (甲子園)
- 宅配センター
- 地下鉄 (東京)
- テレビ局
- デパート
- 電子マネーセンター
- 電車 (甲子園)
- 電力会社 (甲子園)
- トラベルセンター (東京)
- 動物病院 (東京)
- ドラッグストア (甲子園)
- 発明工房 (東京)
- ハンバーガーショップ (東京)
- バウムクーヘンショップ (甲子園)
- バナナハウス (東京)
- パレード
- 飛行機
- 筆記具屋 (東京)
- ビューティーサロン
- 病院
- ピザショップ
- ファッションブティック
- ファーマーズセンター (甲子園)
- ベーカリー
- ペインティングウォール (甲子園)
- ホテル (甲子園)
- ホースパーク (甲子園)
- ボイラ施設 (甲子園)
- ボトリング工場
- ポストレコーディングスタジオ (甲子園)
- 街時計
- マヨネーズ工場 (甲子園)
- ミルクハウス (東京)
- メガネショップ
- ラジオ局
- 理容店
- 料理スタジオ (東京)
- 冷蔵サポートセンター (甲子園)
- レンタカー

〈五十音順〉
2016年1月現在

施設概要

キッザニア東京

東京都江東区豊洲2-4-9アーバンドック
ららぽーと豊洲 ノースポート3階33200

キッザニア甲子園

兵庫県西宮市甲子園八番町1-100
ららぽーと甲子園

営業日 不定休

営業時間 [第1部] 9:00~15:00 (6時間)
[第2部] 16:00 ~21:00 (5時間)
完全入れ替え制

研究1

キッザニア体験が育むこどもの金融リテラシー
～ 体験前後の小学生の質問紙調査による検証 ～

調査・分析

KCJ GROUP 研究調査プロジェクトスタッフ
松川 誠一 教授 (東京学芸大学) 監修

調査対象

- 実験群として、キッザニアに2015年6月から10月に学校団体で来場した茨城県、埼玉県、千葉県、大阪府、京都府、兵庫県の公立小学校9校の6年生 合計726名
- 対照群として、キッザニアに来場しない埼玉県の公立小学校1校の6年生 合計171名

調査時期

2015年6月～11月

調査方法

質問紙調査



キッザニア体験で育むこどもの金融リテラシー

～金融教育の場としてのキッザニアの活用について～

金銭に対する健全な意識形成を目指して

経済・社会状況が急激に変化し、個人の生き方が多様化する中で、「お金に関する幅広い知識や適切な考え方」（＝金融リテラシー）を身につけることが必須であると考えられるようになってきました。幼いうちから、また、すべてのこどもが通う学校においても、より幅広く、お金に関する教育を行うことが望ましいとして、こどもへの金融教育が注目されています。

2015年3月、金融広報中央委員会*の公表した金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」によると、小学校レベルにおいては、「将来を考え金銭を計画的に使う態度を身につける」「ものやお金には限りがあることを理解し、よりよい使い方を考える」などの教育目標が掲げられています。

そこで、KCJ GROUPでは、東京学芸大学松川誠一教授に監修いただきながら、キッザニアでの専用通貨キッズを用いた「稼ぐ」

「使う」「貯める」という体験により、こども達は、お金に関して興味・関心をもつようになる、また自らお金の価値を実感して理解するようになるという仮説をたて、研究を行いました。

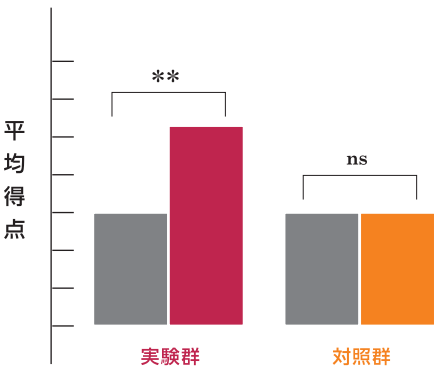
キッザニアに校外学習等で来場された小学校にご協力いただき、キッザニアの来場前と来場後に質問紙調査を実施し、こどものお金に関する考え方や生活態度の変化から、キッザニアの体験の効果検証を行いました。

その結果、キッザニアでの体験は、こども達の「仕事をする事」に関する意識に影響を与えるだけでなく、職業体験により初めて自分が使えるお金を得ることができ、その価値を実感するという一連の体験を通して、小学生レベルでの望ましい金銭に関する感覚を養うことができるという結果を得ました。

今回はその一部をご紹介します。

*金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

グラフの読み方



調査群を、事象の有無によって2つに分け、事象ありの群を実験群、事象なしの群を対照群とします。実験群と対照群の比較を行うことで、結果の差を推計統計学的に考えて、有意差があったかどうか、またその差の大きさによって、実験群に与えた事象の効果がどれほどあったのかを、知ることができます。

有意差とは、統計学的に、「たしかに差があり、それは偶然起こったものではない」といえるかどうかを検定した結果の差のことです。偶然によって差が生じる確率 p が 0.01未満の場合 ($p < 0.01$)、その差は「1%水準で有意である」といい、グラフ中では、比較する要素の間に**をつけて表します。

また、偶然によって差が生じる確率があらかじめ決めた確率水準、すなわち有意水準よりも大きい場合、「有意差なし」といい、グラフ中では、比較する要素の間にns (not significant)と表します。

今回の研究では、キッザニア体験がこどものお金や生活に関してどのような効果を生むのかを調べる目的で、キッザニア来場ありの群を実験群、キッザニア来場なしの群を対照群としています。対象群においては、1回目の調査を事前調査、2回目の調査を事後調査としています。

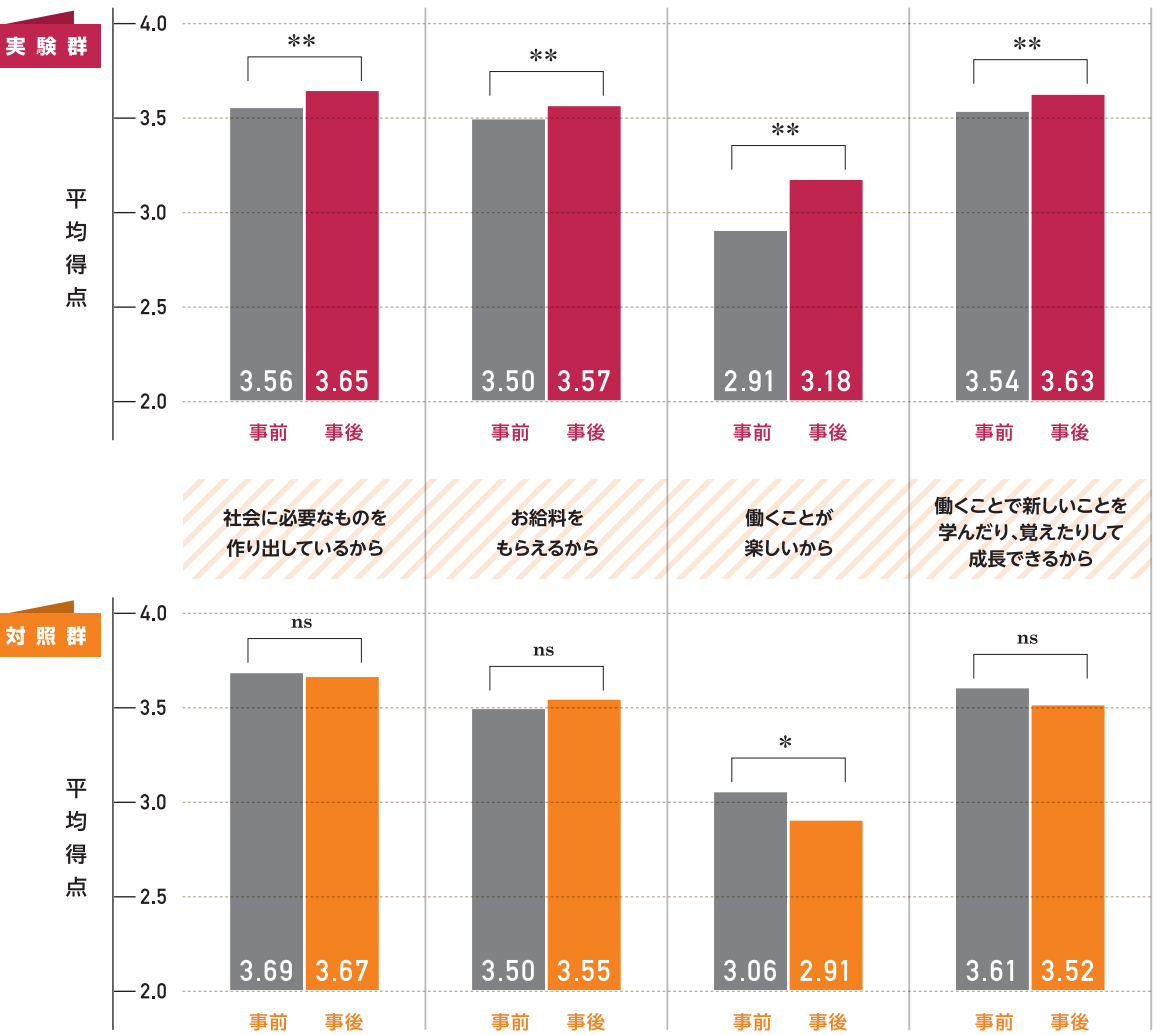
なぜ働くと思いますか？

すべての質問において、実験群（キッザニア体験あり：上段）のこども達の平均得点は、来場前よりも来場後において、有意に高い平均得点を示しました。一方、対照群（キッザニア体験なし：下段）のこども達の平均得点は、有意な変化を示さない、もしくは、有意に得点が下がるという結果を示しました。

キッザニアでの体験によって、働くことの意味を理解し、自分なりの意見をもつようになっていると考えられます。

注：4つの質問項目に、「1思わない」「2あまり思わない」「3すこしそう思う」「4そう思う」の4件法で回答し、選択肢番号を得点として、4点満点の指標で表した。

*: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$ ns: not significant



episode1

4歳の頃はデパートでお給料より高いものを買おうとしていましたが、今では電子マネーで割引体験やエコバッグでスタンプを貯めたりと成長しています。
保護者[大阪府]

episode2

キッザニアが初めての友達に、貯めていたキップを分けてあげた。お金はここぞって思った時に使うと、楽しい気持ちになるんだなって思いました。
9歳男子[大阪府]

episode3

ケンカばかりの弟の誕生日に、娘がこれまでコツコツと貯めてきた600キップを使ってプレゼントを買っていた。正直、驚きました。
保護者[大阪府]

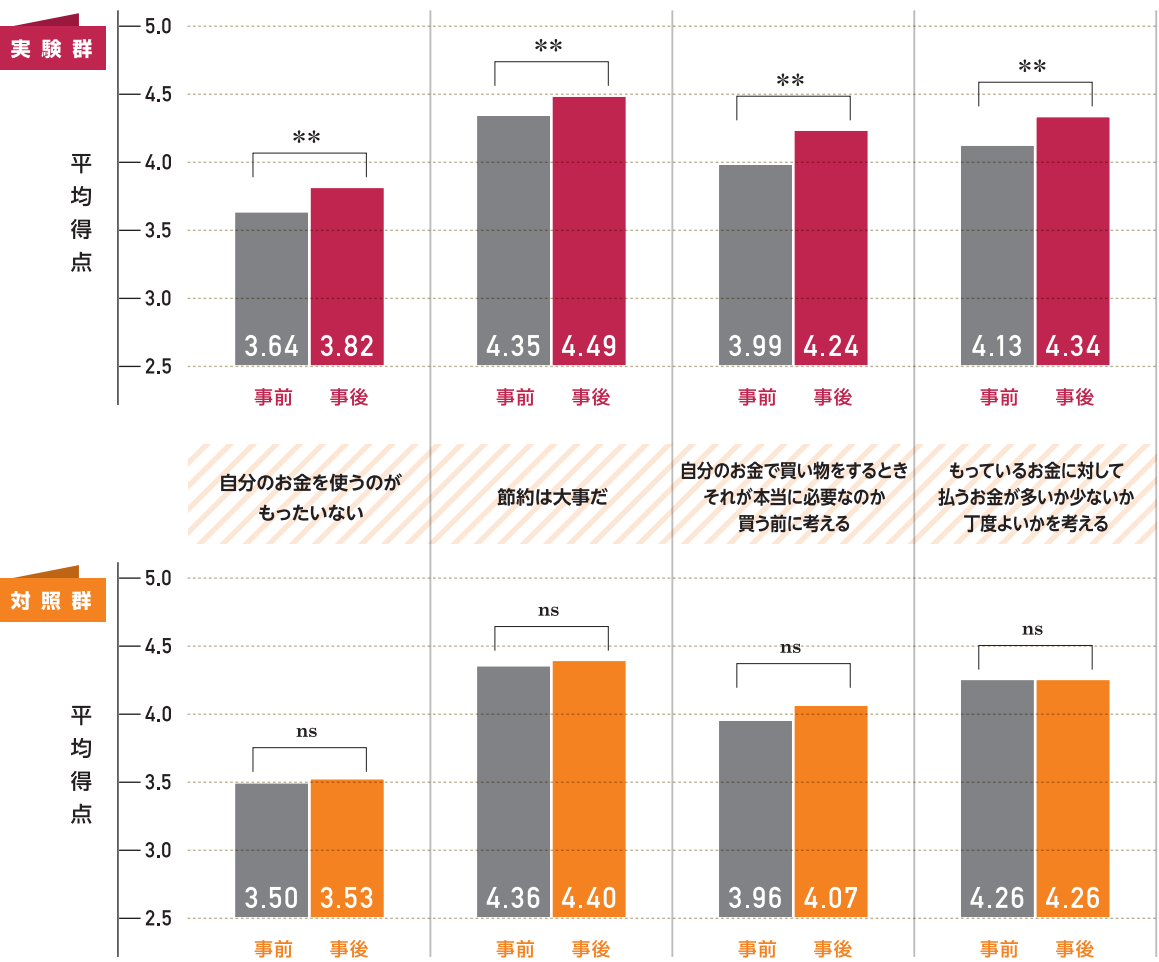
自分のお金で買い物をするとき、どのように考えますか？

すべての質問において、実験群のこども達の平均得点は、来場前よりも来場後において、有意に高い平均得点を示しました。一方、対照群のこども達の平均得点は、有意な変化を示しませんでした。職業体験によって自分で得た「給料」で、サービスを体験したり、買い物をしたりする消費体験の他、銀行に預金したり、電子マネーカードに入金したりするお金の管理体験をすることができます。

キッザニアを体験した後のこどもは、専用通貨「キッズ」で得た経験や感覚が、実際のお金に対しての感覚や考え方にも影響を及ぼしていると考えられます。

注：4つの質問項目に、「1思わない」「2あまり思わない」「3すこしそう思う」「4そう思う」「5ものすごくそう思う」の5件法で回答し、選択肢番号を得点として、5点満点の指標で表した。

**: $p < 0.01$ ns: not significant



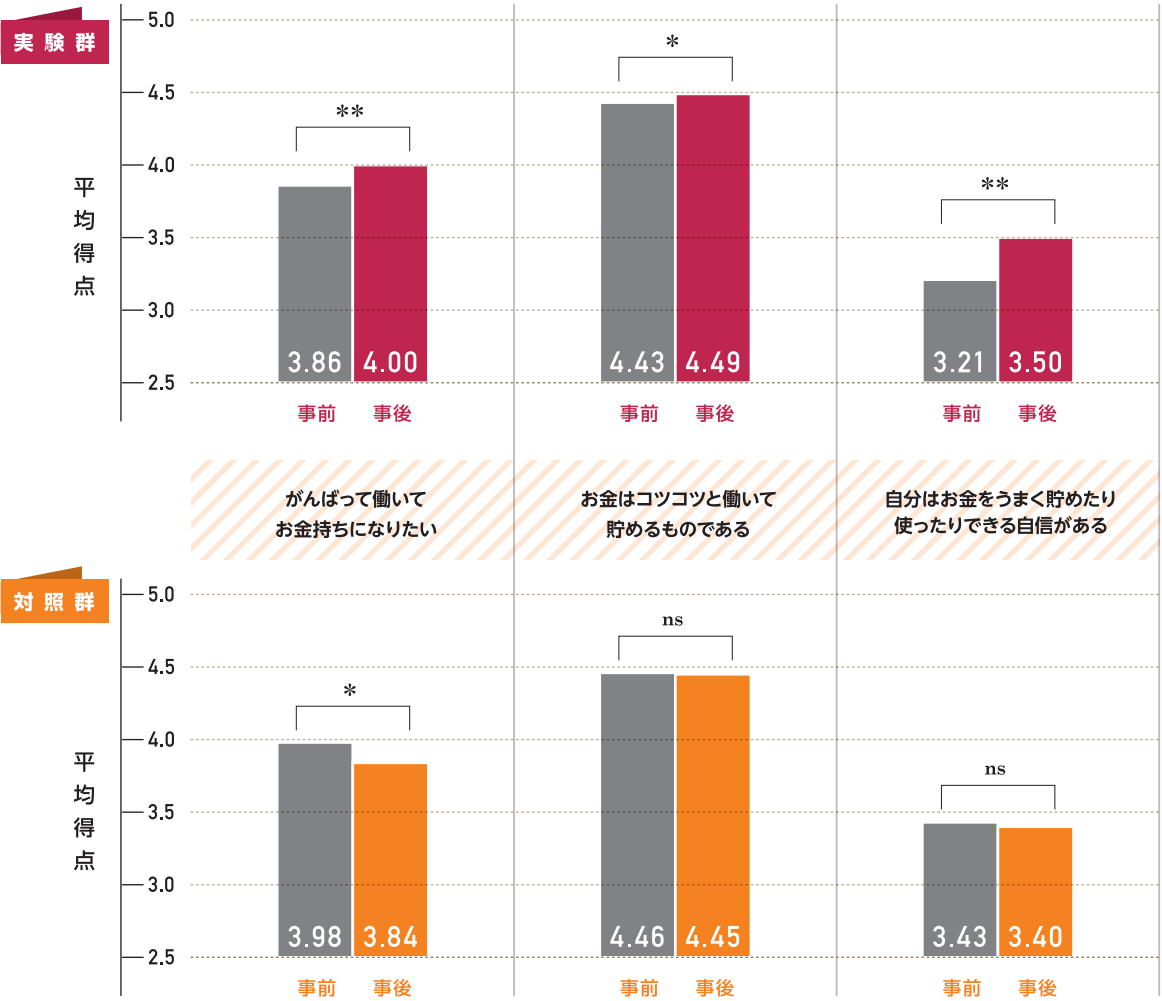
次のことについてどのように思いますか？

すべての質問において、実験群のこども達の平均得点は、来場前よりも来場後において、有意に高い平均得点を示しました。一方、対照群のこども達の平均得点は、有意な変化を示さない、もしくは、有意に得点が下がるという結果を示しました。

キッザニア体験後のこどもは、「お金」を貯めることや使うことに自信をもち、前向きな姿勢をもつようになることがうかがえます。

注：3つの質問項目に、「1思わない」「2あまり思わない」「3すこしそう思う」「4そう思う」「5ものすごくそう思う」の5件法で回答し、選択肢番号を得点として、5点満点の指標で表した。

*: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$ ns: not significant



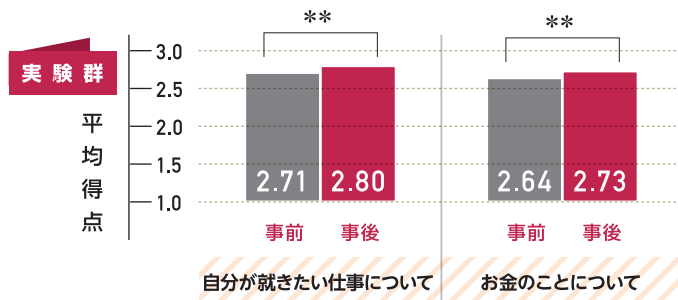
おうちの人と次のことについて、 どのくらい話しますか？

いずれの質問においても、実験群のこども達の来場前後の比較において、有意に高い平均得点を示しました。一方、対照群については、有意な得点変化は見られませんでした。

キッザニア体験後のこどもは、仕事やお金のことなど、将来自分が大人になったときの夢や計画をもち、それを家族と話す機会が増えていると考えられます。

注：2つの質問項目に、「1話をしない」「2あまり話をしない」「3ときどき話をする」「4よく話をする」の4件法で回答し、選択肢番号を得点として、4点満点の指標で表した。

**： $p < 0.01$



2015年11月29日開催
「第30回日本観光学研究学会」
にて本研究を発表しました。

KCJ GROUPの研究調査プロジェクトにより「職業・社会体験施設「キッザニア」の金融教育を目的とした活用について」を研究タイトルとして、本研究を学会発表しました。

本研究の新規性が評価されるとともに、「日常的にお金にふれる機会の多いこどもも、キッザニア体験により金銭観が変わることがあるか」「今後はどのような研究を続けていく予定なのか」等、多数の質問と活発な討論が行われました。

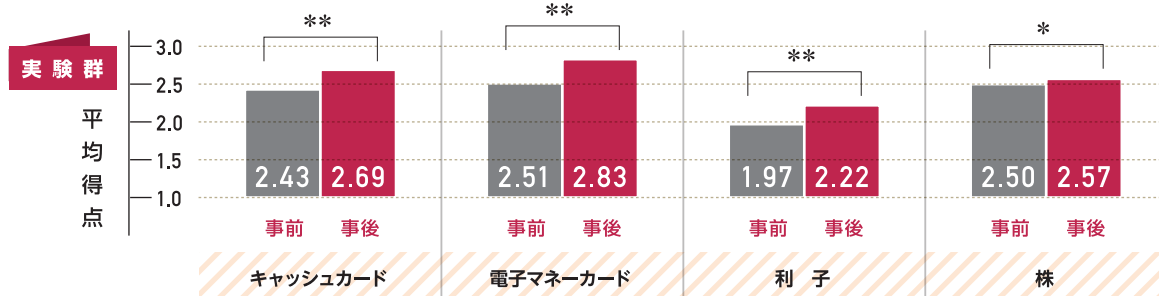
次の言葉の意味を知っていますか？

いずれの質問においても、実験群のこども達の来場前後の比較において、有意に高い平均得点を示しました。一方、対照群については、有意な得点変化は見られませんでした。

キッザニアの中で、銀行での口座開設やATMの操作、電子マネーカードへの入金などを通じて、お金に関する用語に興味をもち、理解を深めているのではないかと考えられます。

注：4つの質問項目に、「1知らない・わからない」「2言葉は知っているが、説明できない」「3知っているけれど、友だちに説明できる自信がない」「4友だちに説明できるくらいよく知っている」の4件法で回答し、選択肢番号を得点として、4点満点の指標で表した。

*： $p < 0.05$ **： $p < 0.01$



調査にご協力いただいた小学校の先生方より

埼玉県戸田市立 戸田南小学校 鈴木佐治子 校長

本校では、キッザニアに行く事前学習として、キッズを用いた「金融リテラシー」講義を行っていただきました。体験後の振り返り学習では、こども達は、「働くことの意義や喜び」「お金の大切さや使い方」について学ぶことができました。翌日、怪我をした友達を、キッザニアで学んだ担架の使い方ですぐ手伝う姿も見られました。



兵庫県加古川市立 岡岡小学校 大西健司 教諭

想像以上に前向きに“働く”ことと向き合うこども達の姿を目にすることができました。「“仕事”とは世界が成り立っていくために最も大切なものの一つだと感じた」という児童や、「働いてお金を稼ぐってこんなに大変で、こんなに楽しいものだと思わなかった」という児童がいました。正しい金銭感覚や仕事の意義に気づかせてくれるキッザニアは、私達教員にとっても魅力的な場所でした。

キッザニアで仕事をして
稼いだお給料の「キッズ」を

貯めますか？使いますか？

キッザニアでの体験の中でも、特に「キッズ」を貯める・使うという点から、こども達にどのような意識や感覚の変化があるのかを探るため、調査を行いました。

来場前(事前調査)には、自分で手に入れた「キッズ」をどのように活用したいのか(目標の設定)、また来場後(事後調査)には、「キッズ」をどのように活用したのか(目標達成できたか)を回答してもらいました。

事前調査 あなたはキッズを貯めますか？使いますか？
(n=131)

58% 貯める

42% 使う

事後調査 目標通りにできましたか

34%
できなかった

66%
できた

42%
できなかった

58%
できた

「貯める」を目標にした人

「使う」を目標にした人

事前調査からは、「使う」よりも「貯める」を目標設定しているこどもが多くみられました。その理由としては、「キッズを貯めたいから稼ぐ」「キッズを使う体験よりも職業体験をたくさんしてみたい」という声が上がっていました。

事後調査からは、「使う」という目標を達成できたこども達よりも、「貯める」という目標を達成できたこども達の割合が高くなりました。「キッズ」を稼ぐ・使う・貯めるという体験から、こども達は「お金」に関してさまざまな気づきや学びを得ていることがうかがえます。

こども達のコメント

最初にもらったお金は、貯めるために、すぐに銀行に預けました。キッズを払う体験は選ばないようにしたので、キッズを貯めることができました。働くということは、自分が生きていく上で大切なものを手に入れるため、そして自分を成長させるために必要なものだと思います。

貯めることを目標にしたけれど、実際にやってみると、貯めようと思ってもなかなか貯まらなかったように思います。だからお父さんやお母さんは毎日毎日仕事に行って、時間をかけて給料をもらって、自分達にご飯を作っているのだということを学びました。それが働くということなのだと思います。

お金を貯めようと思って、たくさん仕事してみました。仕事はどれも楽しくていろいろな体験をしたいと思ったけれど、キッズは少し仕事をしただけでは貯まらないと思いました。

頑張って働いて、お金を貯めて誰かのためや自分のためなどに働くのは大変だし、苦労するだろうけれど大切なことだと思った。大人になって社会に出るともっと難しいこともあるかもしれないけれど、あきらめずに頑張りたいと思った。

初めて自分で働いて、貯めたお金で買い物をしてみたいと思うので、使うことを目標にしました。頑張って働いて、自分の欲しいものを買えた時は、とてもうれしかったです。



京都府木津川市立 相楽台小学校 池田圭子 教諭

平成22年度より毎年6年生がお世話になっています。事前学習では「報酬を得られるもの」「料金を支払うもの」という2種類のパビリオンを知り、活動計画をたてました。収支の分かるワークシートを用いたことで、自分の行動によってお金の動きが変わることが実感できたようです。当日は、計画のもとに見通しをもって活動する子がたくさんいました。

大阪府寝屋川市立 石津小学校 担任一同

キャリア教育の一環として修学旅行においてキッザニアで活動させていただきました。仕事への「しんどい」「大変そう」などマイナスのイメージが、事前学習や体験を通じて「達成感がある」「新しい発見があった」などプラスに変わったこどもが多かったです。ワークブックで活動計画をたてることで、当日のタイムマネジメントも行うことができたのは大きな学びになりました。

キッザニアにおける金融教育の研究によせて

松川誠一(東京学芸大学・教授)

2007年の金融危機以降、金融リテラシー教育の重要性が世界的に認識されるようになってきている。日本においても、消費者金融が容易に利用可能になったことや多重債務問題が深刻化していることもあり、高校を中心とした学校現場で金融リテラシーに対する関心が高まってきている。しかし、特に低年齢層に対する金融リテラシー教育は家庭における「しつけ」の問題であるという考え方が、いまだに根強い。こども達が学校で現金を扱うことは慎重に避けられてきたし、経済や金融の仕組みは抽象的な知識としては教えられるものの、こども達自身がその当事者として体験的に学ぶ機会が極めて乏しい。今回キッザニアが実施した研究は、金融リテラシー教育がその目標のひとつとしているこども達の「お金に対する態度・考え方」がどのようなものであり、またそれがキッザニアでの擬似的な職業体験によってどのように変化するかという点に光を当てたものであり、金融リテラシー教育研究において先駆的で貴重なものである。

学校外の施設などで行われる体験学習は、現在その内容の検討が進められている次期学習指導要領でもより一層重視される方向にある。キッザニアのような施設での体験は、実際の職場でなされる職業体験とは異なり、あくまでも擬似的なものである。しかし、教育的観点からの配慮を計画しやすいという利点を持っている。お金や仕事に対する態度といった将来の生活の質に大きな影響を及ぼす非認知能力のなかには、幼少期の経験が決定的に重要であると考えら



小学校での事前授業にて

れている部分があり、その育成のために科学的な知見に基づいてコントロールされた「擬似的な」環境でこども達が体験的に学習することは社会的にもっと重視されてよい。こうした観点から、今回のような研究をさらに推し進める必要がある。

実際、今回の研究では、キッザニアでの体験の前後で、お金や仕事に対する態度についてプラス方向への統計的に有意な変化が観察されている。体験学習の効果が確認されたわけであるが、ただ施設に行き体験すればよいというわけでもないであろう。施設内でこども達がとる行動のパターンによって効果が異なる可能性はあり、施設内での指導法について検討の余地がある。また、施設訪問にあわせて事前・事後の指導を学校でどのように行うべきであるのかといった点なども今後の研究課題として残されている。キッザニアのような民間施設運営者と学校・教育委員会との共同研究によって、金融リテラシー教育・キャリア教育に関する学校外での体験学習に関する知見がより深められていくことが期待される。

キャリア教育実践プログラム

キャリア教育授業の一環としてキッザニア体験を組み込んだプログラムを、小学校・中学校の団体様専用にご提供しています。

A:学校での事前授業(1コマ45分×4) + **B:**キッザニア体験 + **C:**学校での事後授業(1コマ45分×3)の流れにより、キッザニアでの行動計画を立てるとともに、働くことの意義や自分の将来のことを考えるサポートを行います。来場の予約をいただいた学校には、こども達が自分で書きこめるワークシート

を差し上げております。ワークシートは、「家族や身近な人の仕事についてインタビュー」「キッザニア体験を記録」「仕事紹介カードを作る」など、事前・事後用に各種揃っている他、高学年用オプション教材「じぶん未来発見シート」も用意されています。

本件に関するお問い合わせは[キッザニア教育実践プログラム事務局]まで
キッザニア東京 キッザニア甲子園
03-3536-8401(直通/平日10:00~18:00) **06-6245-0266**(直通/平日10:00~18:00)

研究2

親子関係の変化にみるキッザニア体験の効果：
キッザニアの魅力はどこにあるのか
～ 保護者へのWeb調査と施設内参与観察による検証 ～

調査・分析

牧野 篤 教授(東京大学大学院教育学研究科)
東京大学大学院教育学研究科 社会教育学・
生涯学習論研究室

調査対象

キッザニア東京に来場した
3歳から小学校6年生までの保護者 482名

調査時期

2014年10月～12月

調査方法

- 来場前・来場直後(3日後)・来場後(10日後)の時点での3回、同一の保護者へのWebによる質問紙調査
- アクティビティ前後及びアクティビティ中のこども達の様子を参与観察



「キッザニアの魅力はどこにあるのか」

～親子関係から生まれる「キッザニア効果」～

こどもの肯定感と親の満足感

開業以来、多くの保護者や学校関係の皆様から、キッザニア体験中のこどもの表情や行動に驚いた、キッザニア来場後にこどもの生活態度が変わった、という声をお寄せいただいています。

そうした声をうけ、キッザニアのさまざまな体験は、こども達自身が、その役になりきることによって、新しい自分を感じ取ったり、さらに新しい体験をしようという積極性を引き出したりするようになるのではないかと、そこにキッザニアの魅力があるのではないかとという仮説をたて、その検証を、東京大学大学院 牧野篤研究室と共同で行いました。

Web調査は、キッザニア来場をWebでご予約いただいた3歳から小学校6年生までのこどもをもつ保護者を対象とし、同一の視点から、こどもと保護者自身の変化について経時的に行いました。また、アクティビティ中のこどもを対象として、こどもの発話や動き、表情を参与観察し、こどもの変化の特徴を得るための分析を行いました。

その結果、アクティビティで役になりきって職業・社会体験をすることで、こどもは自己肯定感^{*}が高まることが分かりました。さらには、アクティビティが触媒となり親子の会話が促され、「親子」の「間」で認め、肯定し合う関係が生まれるということも明らかになりました。

また、キッザニアの特徴である、初対面の仲間やスーパーバイザーと一緒にアクティビ

ティをやり遂げること、職業・社会体験をテーマにした限りなく本物に近い体験ができること、そして、体験中に親が少し離れたところから見守っているという距離感が、こどもの肯定感と親の満足感の強化を促し、それがキッザニアの魅力となっていることも見出されました。

このたびの共同研究で、キッザニアでの体験が、親子の会話の増加を促すことにとどまらず、こどもの自己肯定感の高まりを促し、親子の間で相互承認の関係を強化していくことが明らかになりました。

キッザニアが大切にしているこども達の生きる力の土台ともいえる、こどもの自己肯定感の醸成に役立っているという本研究の結果は、キッザニアの運営に携わる者として、大変嬉しいことです。

今後もさまざまな角度から検証を重ねるとともに、これらの結果を施設運営に還元し、キッザニアを進化させていきたいと考えています。

※自己肯定感とは、自分の良いところや悪いところを含めて、自らの価値や存在意義を肯定できる感情のことをいいます。自己肯定感の高いこどもは、自分に自信があり、何事にも挑戦していく強い心を持っているとされ、こうした感覚の形成のためには、幼いころの体験が重要だと考えられています。

東京大学大学院教育学研究科
牧野 篤 教授
特別インタビュー

キッザニアは、 キッザニアだけで 完結しない。

どこにそんなにこども達を 惹きつける要素があるのか。 何かあるなと思ったわけです。

——「キッザニアの魅力はどこにあるのか」という研究テーマは、私共KCJ GROUPにとっても原点からキッザニアを考える機会となりました。どの子も笑顔で楽しかった！と言ってくれることは、特別なことなんだと改めて感じています。

牧野 私も実際にキッザニアを訪問し、こども達の活動の様子を見ましたが、本当に体験中はみんなきらきらと輝くような目をしていますね。

私自身がキッザニアに興味をもったのも、実際にキッザニアに行った周囲のこども達の興奮した様子に触れたのが、きっかけです。既に何度も行っているという子もいましたし、初めて訪れた小学校中学年のこどもは、その後、1週間くらい興奮して、あれこれ家庭で体験について語っていました。そして、また行きたい！と言っていました。

私も以前よりキッザニアの存在は知っていましたが、仕事体験といっても当然デフォルメされたものでしょうし、空間スケールも限られているわけで、どこにそんなにこども達を惹きつける要素があるのかと不思議でした。こども達は正直ですから、つまらなきや行かないでしょうから、これだけ何度も行きたいと言うには、やっぱり何かあるんだろうなと思ったわけです。

——そして研究の結果、「親」など保護者からの肯定的なまなざしが、重要な役割をもっていたということが見

えてきました。キッザニアではこども達は自立的に行動してもらう、ということを大切にしていますので、つきそいの保護者や先生方には、なるべく口は出さずに、ただ見るだけにして下さいとお願いしてきたわけですが、そこに隠れた役割があったのですね。

牧野 研究結果として、当初の予想と違って私が驚いたのが「親の存在」の影響でした。パビリオンの中で仕事体験をしている時の親のまなざし、そして家に帰ってからの親子の対話が、けっこう効いているというか、影響があるんだということが一番大きな発見となりました。

親の方もこどもの話を聞くことで、親からこどもへの肯定感が高くなるということが起こっています。その意味では、キッザニアというのはキッザニアだけで完結するのではなくて、家庭も巻き込んで一つの体系を作っているんじゃないかという、イメージができました。

——キッザニアから帰ってきた直後よりも、10日後のほうが、親子の会話が増え、親がこどもの変化を認めて肯定的になっていることも分かりました。

牧野 仕事についてこどもが体験前より話すようになったり、親の仕事に興味をもつようになったり、将来の夢について話すようになったりといったことから、家庭内で「正の強化事態」が起こっているのですね。家庭内で、親子が相互に認め合い、肯定感を高める中、親子共にキッザニアに、再び出かけたくなっているということだと思います。

——先生の社内説明会では「人は体験を言語化しないと記憶化できない」という一説がありました。さらに、最近のこどもは、IT機器を使った情報検索等により「記憶」を用いなくなっているという指摘もありました。





例えば、こどもが自分の頭の中で、「キツザニアは楽しかったな」と思うだけでは、言語化できていることにならないのでしょうか？

牧野 言語化というのは、例えば、こうやって共通の言語を使って話をし、ゆく行為が必要なのです。共通の言語の背景には共通の観念があって、その観念は個人個人少しずつ違うはずなのです。例えば、感覚で「痛い」と伝えても、痛みは違うわけです。けれども痛いということはお互い分かるという関係があるので、その意味では記憶というのは実は個人の中に蓄積されているのではなくて、関係性の中に蓄積されていくのです。

ですので、例えば体験を言語化してお母さんと話をするとするのは、お母さんとの親和的で心地よい関係の中に、自分の体験が記憶されてたまっていくということになるので、そこはお母さんが存在しながら記憶が作られていくということでもあるのです。キツザニアの面白かった体験がお母さんとの対話の中で記憶化されていくというのは、お母さんの存在も含みこんで、楽しかった体験として残っていくということになります。

それが親子の対話をもっと促していくし、親から肯定感を引き出していくということに繋がっているでしょう。それはこどもにとっても心地のよいことでしょう。また、お母さんが自分のことを認めてくれているという感覚とともに、キツザニア体験が記憶化されていくので、変な言い方かもしれませんが「甘美なもの」というか、心地よいこととして記憶化されていく。だから、また行きたくなってくるし、やってみたくなくなってくるということだと思ふんです。

——調査結果の中で「親(保護者)もキツザニアのアクティビティを構成する一要素」とおっしゃっていたのは、このことですね。仮にですが、もし親や保護者が実際には感動は共有せずに義務的に対応した場合には、こどもにとって返ってきた言葉は同じだとしても蓄積されるものには違いがあるでしょうか。

牧野 違うのではないのでしょうか。やっぱり感覚的なものはあるでしょうから、親が意図的にそうしているのか、本当に心から思っ言っているのかというのは感じ取ってしまうでしょうし、違うと思います。

——親子の関係性の本質的なところとも、繋がっている話だということですね。

牧野 はい。だから、やはり感情の交流があったり、それ以前のある種の信頼感みたいなものがある中で、言葉が交わされて、親子の間に蓄積されていくことが重要です。それにより、親子はさらに良い関係を作り、キツザニア体験を心地よいものに変えていくので、こどももまた行きたい、親もまた行かせたくなるということが、起こるのだらうと思います。

——では、これが親子ではなくて、学校団体などでキツザニアに来場している場合には、どう捉えてゆけばいいのでしょうか。

牧野 その場合は、例えば、こどもと教師との関係が影響してくると思われま。教室での先生と自分という関係の中で、キツザニアの体験がちゃんと記憶されて埋めこまれていく必要があるんで、先生が集団の全員をひとまとめにしてお対応したり、ある意味で便宜的な対応をするのではなく、一人一人に声をかけて、きちんと君のことを見ているよというメッセージを伝えることが必要だらうと思います。

1日3～4回、パビリオンに入って記録をとり続ける「参与観察」から見たもの。

——今回、パビリオンの中に入ってアクティビティ中のこども達の様子を記録しつづけるという「参与観察」を行いました。パビリオンを「サービス系」「ものづくり系」「消費体験系」の3分野に分けて、学生・院生の皆さんに入ってもらったわけですが、フィールドノートに残された膨大な観察データを見るだけでも、今回の研究の基礎作業の緻密さが伝わります。

牧野 ちょっとハードにさせすぎて、学生達の第一声は、「疲れた。もうあんまりやりたくない」でしたが(笑)。——キツザニアが日本に誕生して10年になるということで、昔、キツザニアに来た経験がある学生もいらっしゃると思うのですが、参与観察後の皆さんの感想などはどうでしたか？

牧野 多かったのは、やっぱりこどもの表情についてですね。すごく生き生きしてるというのに驚いていました。あとは、男女差。男の子の方が、やっぱり落ち着かないのです。待ってる間も、女の子はちゃんと座ってるのに、男の子はそわそわしてる。

それから兄弟姉妹で来ている場合に、上の子が下の子の面倒を一生懸命みているという報告も、よくあがっていました。保護者の記述にも、「うちではやったことがないので、見てびっくりした」という声が続々ありました。こう見ると、やはり「親から離す」というのは、意味があるのかなという感じはありましたね。学生達も見ていて、「親が入れないことの意味がありますよね」と言っていました。

——パビリオンの壁1枚の隔たりですが、その中で、自分だけでやるんだ、ということが大きい刺激だということなんですか。

牧野 お母さんに手助けを求められない状況で、上の子が下の子をちゃんと見てあげなきゃいけないという関係になる。自立を促すのでしょうか。

また、ある学生が言っていたのは、例えばハンバーガーをチームで作るという時に、やはり遅い子がいます。そうすると、その子は周りが気になって仕方がなくなってくる。なぜかという、自分が遅いことでみんなに迷惑をかけちゃうんじゃないか、という表情になってくるということなのです。

遅いから嫌だということよりは、みんなに迷惑がかかるから嫌だというふうになってくる。そうすると、先にできちゃった子は、その子を待たせてあげるという感じになる。チームができてくるってこういうことなんだな、と思ったそうです。



——家だとそこまでできないことも、自然にできてしまうということがあるわけですね。

牧野 人間は、基本は社会的な動物なので、本当は自分のあり方も周りとの関係の中で考えたいし、また、人に、とくに親しい人に見て欲しいという存在なんです。これは、私達の業界では定説となっています。——こどもの頃に、お兄ちゃんぶれる場所がないまま育ってしまうのと、頑張らなきゃいけない体験をもつことができた場合では、その後は違ってきますか？

牧野 違って来るかどうかよりも、こどもはきちんと認め・認められる関係を求めているということです。話が少しずれますが「はらっぱとすみっこ」という言葉があって、こどもは見通しがぱっときいて、ただ遊具があるだけの公園は使わないという見方があるんです。知らない大人も適度にいて、はらっぱやすみっこがあると、そこに集まる。見ていて欲しいし、ちょっと離れてもいたい、こういうことなのでしょうね。

——こどもは大人との距離感をもって動いているんですね。それが親でなくても。「ほっといてくれるけど、いる」というのがいいんでしょうか。

牧野 だと思います。だから、あまり先回りして関与されちゃうと嫌な顔をしますし。丸抱えて欲しい時もあれば、ちょっと突き放して欲しい時も。

キツザニアのパビリオンでは、窓から顔も見られるし、アイコンタクトもとれるから、不安になったらお母さんの顔をちらっと見られる。でも、声はかけられないし、助けてとも言えないから、自分でやらなきゃと思う。こういう絶妙な距離感がキツザニアにはあるのだと思います。——こども達にとって、これからも成長と気づきを見つけられる場所であるように、私達も努力してゆきたいと思います。本日は、お話をありがとうございました。

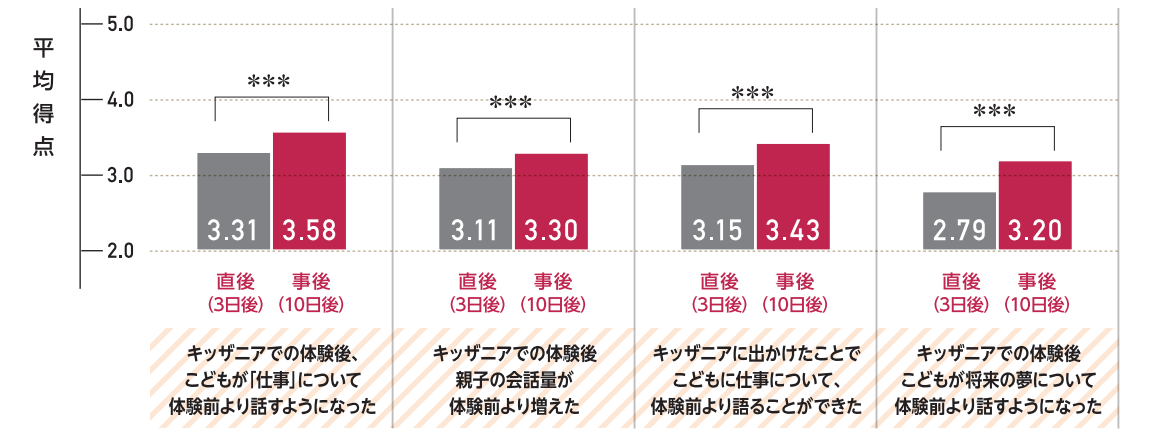
親子の会話の変化

キッズニア来場後の親子の会話に関して、いずれの項目でも、キッズニア来場“直後(3日後)”よりも、さらに時間の経った来場“事後(10日後)”において有意に高い平均点を示しました。

キッズニアでの体験を“触媒”として、来場から時間が経っても、親子の会話量が増えていることがうかがえます。特に「仕事」を共通の話題として、親子の会話が促されていると考えられます。

注:各質問項目に、「1当てはまらない」「2あまり当てはまらない」「3どちらでもない」「4やや当てはまる」「5当てはまる」の5件法で回答し、選択肢番号を得点として、5点満点の指標で表した。

***: $p < 0.001$



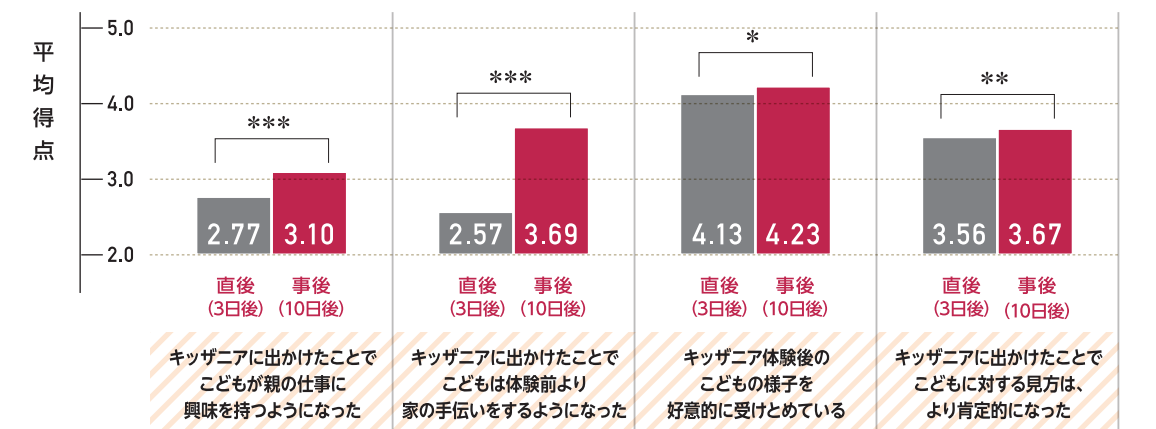
こども・保護者の変化

キッズニア来場後のこどもと保護者の変化について、上記の「親子の会話の変化」と同様に、いずれの項目でも、来場“直後”よりも、来場“事後”において有意に高い平均点を示しました。

キッズニア体験後、時間が経つにつれて、こどもはますます親の仕事に興味をもったり、家の手伝いを進んでするようになったりすることが明らかになりました。また、このようなこどもの変化を、保護者はより好意的に受けとめるとともに、こどもへの肯定感を強めていることがうかがえます。

注:各質問項目に、「1当てはまらない」「2あまり当てはまらない」「3どちらでもない」「4やや当てはまる」「5当てはまる」の5件法で回答し、選択肢番号を得点として、5点満点の指標で表した。

*: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$ ***: $p < 0.001$



保護者の皆様から寄せられた
こども達の変化・成長エピソード

キッズニア体験中や体験後にこども達が見せる、いつもと違った姿や行動について保護者の方からたくさんの声が届いています。

親子共に成長！

待ち時間を自分で管理し、自分でしてみたい仕事を決めてチャレンジ！
失敗したり、難しかったり、見ている保護者はハラハラしますが、次は上手くできるようになっています。見守るだけで口出し手出し不要のシステムは、親子共に成長することができます。姉と弟のペアで毎回参加していますが、普段はけんかばかりしているのに、一緒にお仕事しているときは助け合う姿も見られます。

きんぎょさん 奈良県

お米大好き息子に大変身！

小学校2年の息子は、少食なことがずっと悩みでした。キッズニアでファーマーズセンターや精米工場のお仕事をするうちに、すっかり白米大好きっ子になり、食事の量も増えました。

また、「お米を作るのって大変なんだよ！一粒でも大事に食べなくちゃ!」とお茶碗に残ったご飯も一粒残らずきれいに食べるようになりました。

そうくんママさん 徳島県

子育ての醍醐味

こども達が真剣な顔でお仕事中、ふと顔をあげて、外から見ている私と目が合ったとき、「にこっ」と笑顔を見せてくれると、なんとも言えない幸せな気持ちになります。子育てが大変に思うときもあるけど、この笑顔を見ると、親になってよかったな、また頑張ろうって。これが子育ての醍醐味なのかもって感じます。

Kumikoさん 愛知県

教えてくれてありがとう

先日初めてのキッズニアへ。
娘がまっさきに向かったのはキャビンアテンダントのお仕事。引っ込み思案な娘が機内アナウンスを希望し、手を上げていることにまずびっくり。その後もお仕事をキラキラした笑顔で頑張っていました。

引っ込み思案、恥ずかしがり屋なんて思っていたのは、私達だけだったようです。

りーMAMAさん 兵庫県

共同研究に協力してくれた社会教育学・生涯学習論研究室をご紹介します。

社会教育、生涯教育が専門の牧野篤研究室では、人々の「学び」を通じた社会形成という観点から教育のあり方を探求し、高齢社会である日本の街づくり、さらに中国・台湾のコミュニティづくりの問題に取り組んでいます。自治体と一緒に公民館活動や生涯学習に関する共同調査を行ったり、多世代交流型コミュニティの構築に関わったり、企業と一緒に「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営しています。

それぞれの研究・調査フィールドに出かけることが多く、にぎやかな研究室です。

今回の研究では、パビリオン内に入っても子ども達の様子を観察・記録する参与観察を研究室の皆さんに担当していただきました。観察の記録は、KJ法により分析され、調査結果としてまとめられました。

長時間の調査・分析にご協力いただき、感謝申し上げます。

研究室の皆さん、ありがとうございました。



調査ではビューティーサロンの観察を担当しました。お母さんから離れ、初めは不安そうな表情を見せていた子ども達が、制服を着てあいさつの練習をするころには「小さなビューティーコンサルタントさん」のように見えてくるから不思議です。キッザニアのアクティビティには身に着ける衣服からふるまい、体験する職務工程のすべてに子どもだましではないリアリティがあり、それゆえにどんな子でもいつの間にかその役に「なりきって」しまうのです。お客さん役の女兒に化粧を施すときの真剣なまなざしや慎重な手つきがそれを物語っていたように思います。

大学院 博士課程3年 相良 好美

子ども達が制服を着た途端にスイッチが入り、スーパーバイザーの手振りを真似してみたり、逆に、興奮して友達と遊んでしまったりする様子が印象的でした。また、危ないことや、やりにくいことに直面したときには自分より小さな子に自然と手を差し伸べるような雰囲気が微笑ましく感じました。

参与観察では、ふとした表情などを文字に書き起こすことの難しさを実感しましたが、学生間で調査の方法や分析の視点について議論を重ねられた貴重な経験ができたと思います。

大学院 博士課程3年 中川 友理絵

参与観察

社会調査の手法のひとつで、主に異文化社会の研究などに用いられます。

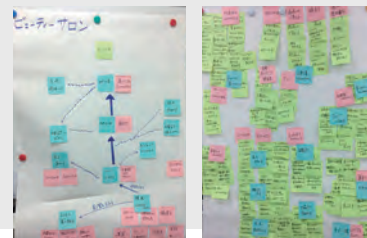
調査者自身が調査対象である社会や集団に加わり、そこでの事象を、自らの体験を通して多角的な側面から長期的に分析・記述することを基礎としています。

今回の研究では、アクティビティ中だけでなく、アクティビティ前後のこどもの様子や発話、こどもと保護者・スーパーバイザーとの関わりを観察し、詳細なフィールドノートを作成しました。

KJ法

文化人類学者の川喜田二郎氏によって考案された、収集した多量の情報を効率よく整理するための手法です。収集した情報をカード化し、同じ系統のものでグループ化することで情報の整理と分析を行います。

今回の研究では、参与観察で作成したフィールドノートをもとに、[こども達の動作や表情に特徴的な語句の抽出]→[グループ化]→[小グループから大グループへ]→[大グループの関連性を図示]→[ストーリー化]を行いました。



独自リサーチ

「キッザニア」小学生1,000人アンケート ～「ICT」と「グローバル」に関する調査結果～

調査対象

キッザニア東京・キッザニア甲子園に
来場した小学生 1,004名

調査時期

2015年10月6日～8日 キッザニア東京
2015年10月13日～16日 キッザニア甲子園

調査方法

対面によるアンケート調査



キッズニアでは、いまどきのこども達の意識や行動を理解するために、2014年から毎年秋に小学生への調査を実施し、調査リリースを発行しています。

2015年のテーマは「ICT」*と「グローバル」とし、「キッズニア東京」「キッズニア甲子園」に会場した小学生1004人を対象に、対面によるアンケート調査を実施しました。

その内容をご紹介します。

*ICTとは Information and Communication Technologyの略で、インターネットやコンピュータなど、情報通信コミュニケーションに関連する機器・技術をいいます。

■ 調査人数 (内訳)

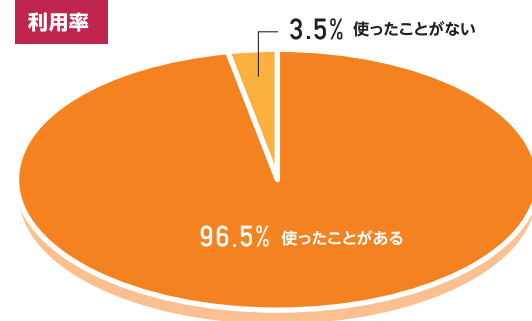
	男 子		女 子		合 計
	低 学 年	高 学 年	低 学 年	高 学 年	
キッズニア東京	110	146	121	125	502
キッズニア甲子園	101	118	150	133	502
合 計	211	264	271	258	1004

ICT

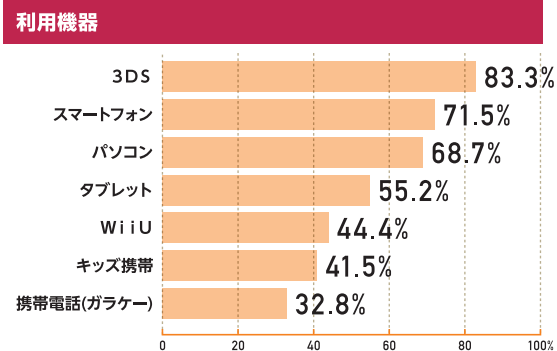
利用率と利用ツール

3DS等のゲーム機を含めたIT機器の利用率は97%。スマホは7割、タブレットも半数以上が利用しています。

利用率



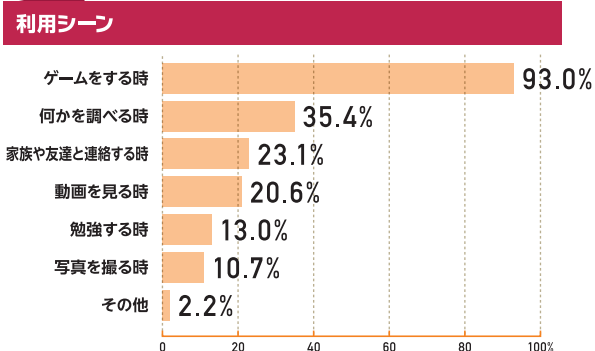
利用機器



利用シーン

ICTの利用シーンは、ゲームが9割であるのに対し、勉強は1割強。文部科学省でICTの活用等による学びの推進を掲げているが、ICTの学習利用は実態としてはまだこれからといった状況といえそうです。

利用シーン



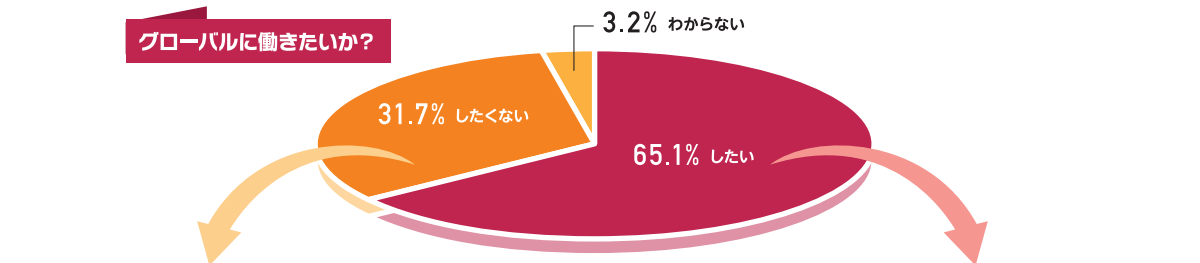
グローバル

将来、グローバルに働きたいか？

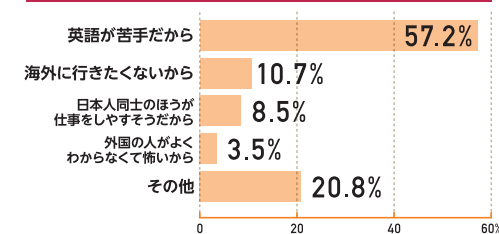
将来、グローバルに働きたい(色々な国の人と仕事をしたい)と回答した小学生は6割強。

そのために一番必要だと思うことは「英語を話せること」がトップ。また、働きたくない理由は「英語が苦手だから」が最も挙げられており、「英語」に対する抵抗感をなくすることがまずはグローバル人材育成への第一歩と考えられます。

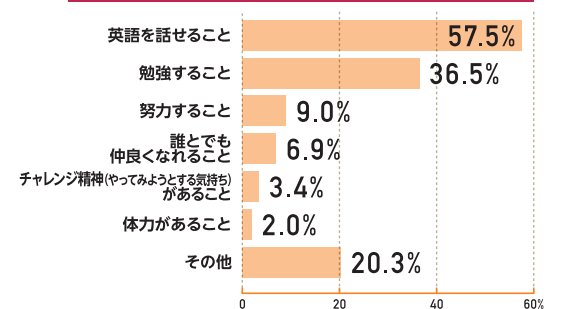
グローバルに働きたいか？



【働きたくない人に】グローバルに働きたくない理由



【働きたい人に】そのために一番必要だと思うこと

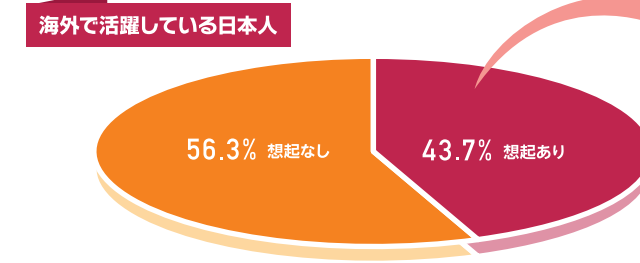


グローバルに活躍している日本人

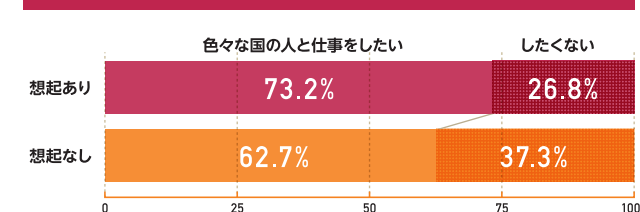
グローバルに(海外で)活躍している日本人を思い浮べた人は4割強となりました。ほとんどがスポーツ選手で、1位は「錦織圭」。続いて、「本田圭佑」「イチロー」の順となっています。

また、想起があるこどもの方がグローバルに働きたいという割合が高くなっており、このような海外で活躍している人達を身近に感じることもグローバル意識を育むための重要な要素の1つといえそうです。

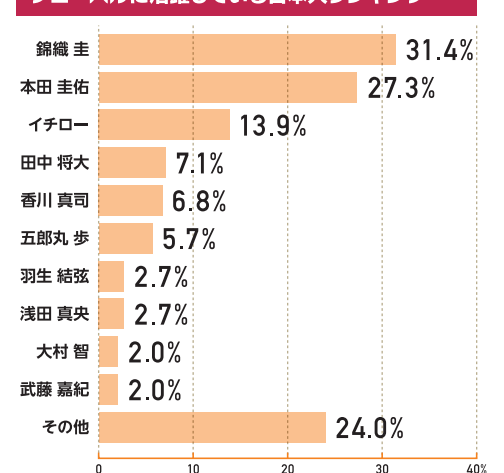
海外で活躍している日本人



【海外で活躍している日本人の想起あり・なし別】グローバルに働きたいか？



グローバルに活躍している日本人ランキング



キッザニアではこれまで、さまざまな大学の研究機関などのご協力のもと、「キッザニア体験」の意味や現代のこども達の考え方、暮らし方などについて研究をすすめるとともに、その情報を広く共有・開示してまいりました。

キッザニアの街の中で、こども達はどのような気づきを得て、どんな成長をたどっているのかということは、私共運営側にとっても、大きな課題です。学術的な手法と裏付けのもと、その実像を長年にわたって調べてゆくことは、今後の運営の礎ともなる重要な情報となると考えています。

また、教育関係者様や一般の保護者様、そしてスポンサー企業の皆様にとっても、客観的にキッザニアを評価いただく、指針となったのではないのでしょうか。キッザニアの主役はこども達ですが、それを運営し、支えてゆくのは私共大人です。皆様からのご支持・ご支援があつてこそ、キッザニア体験は何倍にも充実したものになると思います。どうぞこれからも、キッザニアをご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回、調査研究にあたって監修・ご協力いただきました東京学芸大学の松川誠一教授、東京大学の牧野篤教授のお二人には心より感謝を申し上げます。

代表取締役社長兼CEO

鈴木 眞



